

コーディネーターニュース

ロータリーの戦略計画は、クラブの活性化のため! ～衛星クラブのご紹介～

第3ゾーン ロータリーコーディネーター補佐

都 筑 文 男

(塩尻RC)

去る2月5日、北清治、杉谷卓紀RI理事主催にて「国際ロータリー・日本ロータリーチーム会議」が開催されました。地域別会員増強計画プロジェクトリーダー辰野克彦様をはじめ各ゾーンのロータリーコーディネーター (RC)、ロータリー公共イメージコーディネーター (RPIC)、ロータリー財団地域コーディネーター (RRFC)、及びその補佐、恒久基金/大口寄付アドバイザー (EMGA)、研修リーダーが一同に会し日本ロータリーチームメンバーの地区及びクラブへの支援についてディスカッションをしました。私なりにまとめましたのでご報告致します。

- ロータリー戦略計画は会員増強だけが目標の様に間違っ理解されている
- ロータリー戦略計画はクラブの活性化及び強化の指針であり強いクラブ作りに不可欠である
- RC、RPIC、RRFC、EMGA等の認知度が低く、もっと各地区がコーディネーター、アドバイザーを積極的に活用してほしい(会員増強セミナー、会員研修セミナー、PETS、地区研修・協議会等へ)
- 各リーダーが任期1年の弊害を排除し、地区もクラブも3～5年の戦略計画(長期の活動計画)を作成してほしい(3～5年後のクラブのビジョンを全員で描く)
- クラブの戦略計画の立案や遂行には、直前会長、会長、会長エレクト、会長ノミニの連携が重要であり、これによりクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)も推進できる
- 地区に「戦略計画委員会」を設置し、また、この委員会がクラブの戦略計画委員会(仮称)または、研修委員会をサポートし、クラブの活性化を援助して欲しい
- Eクラブや衛星クラブの設立により会員増強を推進してほしい

これらを参考に地区やクラブに合った戦略計画を立案していただき更に活気のある楽しいロータリークラブにしましょう。

ここで衛星クラブについてご紹介致します。

2013年規定審議会制定案13-32にて採択された新しいクラブの形です。

2013年手続要覧(4ページ)には以下のように掲載されています。「ロータリー衛星クラブ(Rotary Satellite Clubs)は、いわば「クラブの中にあるクラブ」(潜在的クラブ)である。衛星クラブの会員は、そのスポンサークラブの会員でもある。衛星クラブは、スポンサークラブとは別に例会を開くが、通常のロータリークラブの規則に則って運営されなければならない。」

衛星クラブは、新しいロータリークラブを立ち上げたいが、創立会員候補を20名すぐに集めるのは困難なため、少人数(最低8名)でスタートした後、時間をかけて通常のロータリークラブへと育てたいという時に作ります。そのため例会時間や年会費など入会のハードルを低く設定でき若い会員候補の入会が促進できます。

衛星クラブ会員は、通常のロータリアンと同等の義務を負いまた、権利も与えられています。会員数が20名を超えても「加盟認証」を必ずしも受けなければならないということではなく、この形態でクラブを運営できる期間にも制限はありません。

現在、世界で113クラブ(3月10日現在)が誕生し、日本の第1号は東京多摩RCをホストに2014年6月6日認可された「東京多摩せいせき衛星クラブ」(会員数18名、3月10日現在)です。

会員増強に衛星クラブやEクラブの結成もご検討ください。